

6 無形固定資産と研究開発費

(1) 無形固定資産、ソフトウェア

固定資産のうち「形」のないもの。(例:特許権、のれん、ソフトウェアなど)。取得した際に資産計上し、決算時に減価償却する(残存価額ゼロ、直接法で記帳)

・10月1日、当社は自社利用目的でソフトウェア100,000を購入し、代金は小切手で支払った。

・決算にあたり上記のソフトウェアを償却する。利用可能期間を5年間と見積もっている。

(144回1問改)①社内利用目的のソフトウェアの開発を外部に依頼し、3つの契約の総額¥30,000,000のうち20,000,000円を一括で支払い、残りを翌月払いとした。

②このソフトウェアの製作が完成し使用を開始したため、ソフトウェアの勘定に振り替えるとともに、残額の支払いを普通預金から行った。

(147回1問)外部に開発を依頼していた社内利用目的のソフトウェア(開発費用¥24,800,000は4回分割で銀行振込により全額支払済み)が完成し使用を開始したため、ソフトウェア勘定に振り替えた。なお、開発費用¥24,800,000の中には、今後の4年間のシステム関係の保守費用¥4,800,000が含まれていた。

(2) 研究開発費

研究開発に要した支出(研究員の人件費、実験器具、実験材料、研究委託費など)すべてを研究開発費として費用処理する。(備品などであっても資産計上はしない)

(142回1問)研究開発部門を拡張することになったため、実験専用の機器を追加購入し、代金¥600,000は小切手を振り出して支払った。また、研究開発のみの目的で使用するために備品¥300,000も購入し、代金は翌月末払いとした。さらに、研究開発部門で働く研究員への今月分の給料および諸手当¥450,000を現金で支払った。

【解答】

6 無形固定資産と研究開発費

(2)無形固定資産、ソフトウェア

・10月1日、当社は自社利用目的でソフトウェア 100,000 を購入し、代金は小切手で支払った。

ソフトウェア 100,000 / 当座預金 100,000

・決算にあたり上記のソフトウェアを償却する。利用可能期間を 5 年間と見積もっている。

ソフトウェア償却 10,000 / ソフトウェア 10,000

$100,000 \div 5 \text{年} \times 6 \text{月} / 12 \text{月} = 10,000 \text{円}$

(144 回 1 問改)①社内利用目的のソフトウェアの開発を外部に依頼し、3つの契約の総額¥ 30,000,000 のうち 20,000,000 円を一括で支払い、残りを翌月払いとした。

ソフトウェア仮勘定 30,000,000 / 現金 20,000,000

未払金 10,000,000

②このソフトウェアの製作が完成し使用を開始したため、ソフトウェアの勘定に振り替えるとともに、残額の支払いを普通預金から行った。

ソフトウェア 30,000,000 / ソフトウェア仮勘定 30,000,000

未払金 10,000,000 普通預金 10,000,000

(147 回 1 問)外部に開発を依頼していた社内利用目的のソフトウェア(開発費用 ¥ 24,800,000 は 4 回分割で銀行振込により全額支払済み)が完成し使用を開始したため、ソフトウェア勘定に振り替えた。なお、開発費用¥ 24,800,000 の中には、今後の 4 年間のシステム関係の保守費用¥4,800,000 が含まれていた。

ソフトウェア 20,000,000 / ソフトウェア仮勘定 24,800,000

長期前払費用 4,800,000

(2)研究開発費

(142 回 1 問)研究開発部門を拡張することになったため、実験専用の機器を追加購入し、代金¥600,000 は小切手を振り出して支払った。また、研究開発のみの目的で使用するために備品¥300,000 も購入し、代金は翌月末払いとした。さらに、研究開発部門で働く研究員への今月分の給料および諸手当¥450,000 を現金で支払った。

研究開発費 1,350,000 / 当座預金 600,000

未払金 300,000

現金 450,000